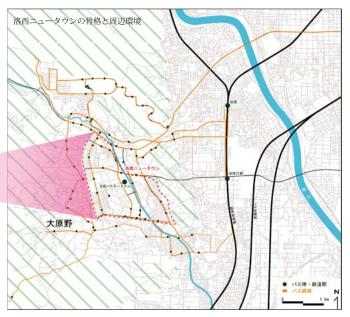
京都大学工学部地球工学科 4 回生:坪井亜美、林美由希

京都大学大学院工学研究科 景域環境計画学研究室 M1:木村優介、土屋峻、長縄雄一郎、村上理昭 協力者 京都大学大学院工学研究科 景域環境計画学研究室 M3:八本址載、D2:林倫子、D3:山口敬、

洛西ニュータウン概要



	面積	260.7ha
	世帯数(2005 年 4 月時点)	10,800 世帯
	人口(2005 年 4 月時点)	28,600 人



高度経済成長期に入り、人口増加による住宅需要に応えるため、1969 年に計画され、1976年に入居が開始された。将来的には京都市内の地 下鉄が延線されるという触れ込みのもと、団地を中心とする低廉・良質 な住宅に多数の入居者が集まった。

人口の推移

団地の老朽化や地域サブセンターの衰退に伴い、徐々に町の活力を失っ てゆき、居住者は 1990 年の約 36,000 人を境に人口は減少に転じた。 2005年4月現在、約10,800世帯に約28,600人が居住している。

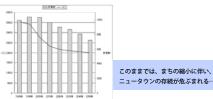
また、地下鉄の延線計画は現在でも目処が立っておらず、市内中心部へ 行く拠点である阪急桂駅又はJR向日町駅には、15 分ほどバスに乗ら なければならない。近年、ニュータウンから 2.5km の位置に洛西口駅 (阪 急) が開業したが、洛西口駅経由のバスの本数が少ないために、依然と して桂駅・向日町駅経由のバス利用が主流である。

洛西地区は、江戸時代から孟宗竹の栽培や稲作農業が営まれてきた。 ニュータウンは西山のふもとに建設され、まちの西側には、京都市の自

然風景保全地区に指定されている大原野がある。そこには

- 一面に広がる田園風景
- ・千眼桜(せんがんざくら)が有名な大原野神社
- ・京都市内を一望することもできる花の寺 が存在し西山を背景に、田畑の中に民家が点在 する里山の原風景を体験することができる。

現状分析



外部のまちとの移動を担う交通の利便性が悪いことは、現在住んでいる人にとっ ても、今後住み移ってくる人にとってもマイナス要素である。

- 人口の減少
- 空き部屋の増加
- バスに依存する外部へ のアクセス
- ・大原野との隔離

今後も持続可能な都市 であるために、再生案 が必要である。







ニュータウンから見た大原野

大原野とニュータウンの間の道路

道路そして家の壁面が、隣接し合うニュータウンと大原野の間に距離をつくって いる。周囲の美しい風景がなんとももったいない。

計画のコンセプト

「田舎暮らしのできるニュータウンをつくる」

具体的な手立て

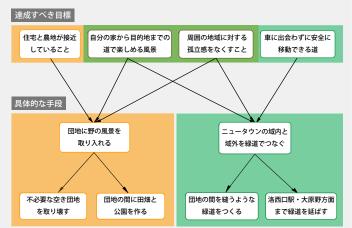
- ・ニュータウン建設以前に存在した野の風景を、過密した団地の間に取り入れる
- ・ニュータウンの域内、及びニュータウンと大原野・最寄の洛西口駅を緑道でつなぐ

私たちは、子供たちが様々な遊びや体験ができる風景として、この地域に固有の大原野の風景を 考えた。現在は大原野とニュータウンとの境界が明確であるため、ニュータウンの中で生活して いる限り、大原野の面影を感じ取ることはできない。そこで、本計画では、

- ① ニュータウンの周辺地域に対する孤立感を和らげる
- ② 自宅から目的地までの道のりで楽しめる風景をつくる
- ③ 車に出会わずに安全に移動できる道をつくる
- ④ 住宅と農地の立地を接近させる

ことを目標として、大原野の風景を団地の中に取り込み、ニュータウンから大原野、洛西口駅を つなぐ緑道を整備する。

コンセプトダイアグラム 田舎暮らしができる ニュータウンをつくる 田舎 大原野に見られる コミュニティー 団地・住宅地 固有の風景 都心・他の地域へ のアクセス 鑑賞する #同作業 能動的に触れる 公共的空間 博内の移動 広い公園での 球技 田畑で小学校の ラクセーヌでの買い物 山林の中で 虫捕り 水田脇の水路で水遊び・釣り 遊歩道で散歩



緑道はこう変わる



現在のニュータウンでは、幅の広 安全な緑道は、右図のように一部に しか広がってはいない

の写真のように、緑道が車道によ て途切れている部分が存在する。車道 と経道の境が曖昧であり、歩車分離が 明快になされているとは言えない。

洛西ニュータウン再生のダイヤグラム

現在、洛西ニュータウンの内部では、高密度の団地の間を縫うようにして緑道が整備されて いる。本計画は、緑道の整備計画と団地の配置計画を主な内容とする。

まずはニュータウンにおけるネットワークを強化し、子供の遊び場となるような場所を創出 するために、既存の歩道の緑道化整備を行う。

これにより、洛西口駅とまち、そして大原野をつなぐ軸ができ、京都市中心部へのアクセス の改善とともに、ふるさとの風景である大原野の自然を身近に感じることができるようにな

そして、90年代から顕在化しはじめたニュータウンの人口減少に対応するため、団地の取 り壊しと、平行して跡地の整備を行う。 その際には、団地の跡地に効果的なオープンスペースを創出することができるかどうかを慎

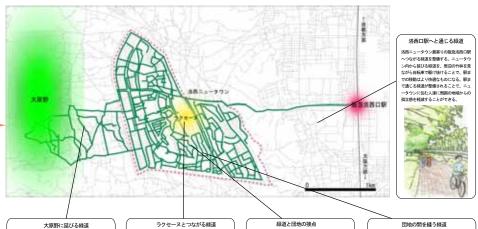
重に判断し、団地の老朽化等を踏まえた上で、計画的に取り壊しを行う。

団地の跡地には、田園や畑などの農業用地と、芝生公園や竹林などのアメニティ空間を取り

これにより、大原野にみられる「農」の要素をニュータウン内に取り込む。そして、大原野 のふるさとの風景が、ニュータウン内によみがえり、洛西ニュータウンは「田舎暮らしができるニュータウン」となる。



団地はこう変わる



放課後、学校から帰った子供たちは、遊び場を求めて大原野 へと繰り出す。ニュータウンから緑道でつながった大原野で は 経済は駐消と



共同畑

団地に住むお母さんは、昼間は共用畑に出て、近所のみ

んなと畑仕事。収穫した野菜が、そのまま晩ご飯の食料

何の苗を納えるか、誰が何曜日に世跃をするのか、探

た野菜をどうするか・・・各団地に用意されている共用

例では、これらを全て団動内でほ1.会って決定する。

れにより、農業に触れる 機会を増やすだけでなく 団地内でのコミュニケ

ションがより活性化され

と考えられる。

緑道は団地、学校、公園をつなぐだけでなく、洛西ニュー

タウンの中心として、バスターミナル、ショッピングセン 東道に出会わず

ニュータウン内 に個日出に広が る緑道に従えば 安心・安全に生 活を営むことが

- ュータウン内の団地は、このように、家を出るとすぐ緑 道へと通じている。この経道は、学校、ショッピングセン 、公園などに通じており、住民の生活に密着した安心 安全なパスとなる。



11地の間を縫うように延びる緑道では、付近の団地の住民 Eltでなく、ニュータウンの他の地区に住む人達にとって ニュータウン内の移動を楽にする。団地の前で花の 入れをするお母さ , 学校から傷-

台となる。





ニュータウンに住む、ある子供の1日

AFTER

.......

緑道で安心・安全に学校へ

BEFORE

.....

車がそばを通る通学路



課外授業の田植え

虫を捕りに大原野へ



家に帰ってすぐゲーム



共同畑のあぜ道をかけっこ



駐車場でボール遊び





テレビに釘付けの子供



捕った虫を家族に自慢



芝牛広場 おおきな丘のある芝生広場は、子供たちの格好の道

び場。丘と竹林にはさまれた芝生広場の中では、鬼 ごっこやボール遊びなど、さまざまなアクティビラィが可能となる。芝生広場は団地の前にあるので、 安全面に関しても









団地 200 m

「鹿」の思い出が刻まれる。

供が交流することによ

農家のおじいちゃんの家 に遊びに行く、という主番

が見られるようになるだ

指導は、大原野の農家の方に協力を仰ぐ。農家の方と

緑道 (新規) 経道 (既存)